

ブルーベリーの誘引作業をする倉田さん



(株)WOOD 浜松市

ブルーベリー 収入保険に加入 挑戦の後押しに

【静岡支局】ブルーベリーを栽培する浜松市中区の「株式会社WOOD」。自社産果実を使った加工品を販売している。ブルーベリーの知名度を向上させるため、栽培管理やリスク管理に力を入れて生産性の向上を図るほか、新たな加工品の開発に取り組んでいる。

「当園のブルーベリーは皮ごと食べられて、種が無い。100円玉から500円玉ほどの大きさの自信作」と代表の倉田隆志さん(41)。「酸味のイメージが先行しているが、しつかりした甘さに程よい酸味が魅力的なブルーベリーを、もっと多くの方に知ってほし

新技術導入や加工品開発へ



500円玉大のブルーベリー

「い」と続ける。ビニールハウス72畝で、品種「ユリカ」を中心に栽培に取り組む。ハウスと同じ敷地内にある「WOOD BERRY FARM」では、生のブルーベリーやジャムなどの加工品のほか、自家製ブルーベリースソースを使ったソフトクリームなどを提供している。

以前からブルーベリーに関心を持っていた倉田さんは、2013年にブルーベリー栽培を開始。品質と収量を上げるため、肥料や剪定、温湿度の管理などに試行を重ねてきた。

現在は園地に足を運び、実際に自分の目で作物を確認することを大切にしながら、スマートフォンを活用した温湿度管理で効率化に取り組み、面積100㍓、1万本の栽培を目標に経営の拡大を目指す。

新技術の導入や、新製品の開発にも積極的な倉田さん。収入保険の加入が、「挑戦への後押しとなっている」という。「お客さまからの『おいしい』『また食べたい』という声にやりがいを感じている。今後は、ブルーベリーを使ったそうめんやビール、チョコレートなどの商品化を実現させたい」と意気込む。(中井、伊藤)



自家製ブルーベリースソースを使ったソフトクリーム

害虫の発生などに悩まされることが多かったため、万が一に備えて加入していた収入保険で、被害の損失を補った。

現在は園地に足を運び、実際に自分の目で作物を確認することを大切にしながら、スマートフォンを活用した温湿度管理で効率化に取り組み、面積100㍓、1万本の栽培を目標に経営の拡大を目指す。

新技術の導入や、新製品の開発にも積極的な倉田さん。収入保険の加入が、「挑戦への後押しとなっている」という。「お客

さまからの『おいしい』『また食べたい』という声にやりがいを感じている。今後は、ブルーベリーを使

ったそうめんやビール、チョコレートなどの商品化を実現させたい」と意気込む。(中井、伊藤)